

糖尿病診断と合併症

〈糖尿病とは〉

糖尿病は、膵臓でつくられるインスリンというホルモンが不足したり、働きが悪くなったりしたため血液中のブドウ糖(血糖)が異常に高くなる病気です。

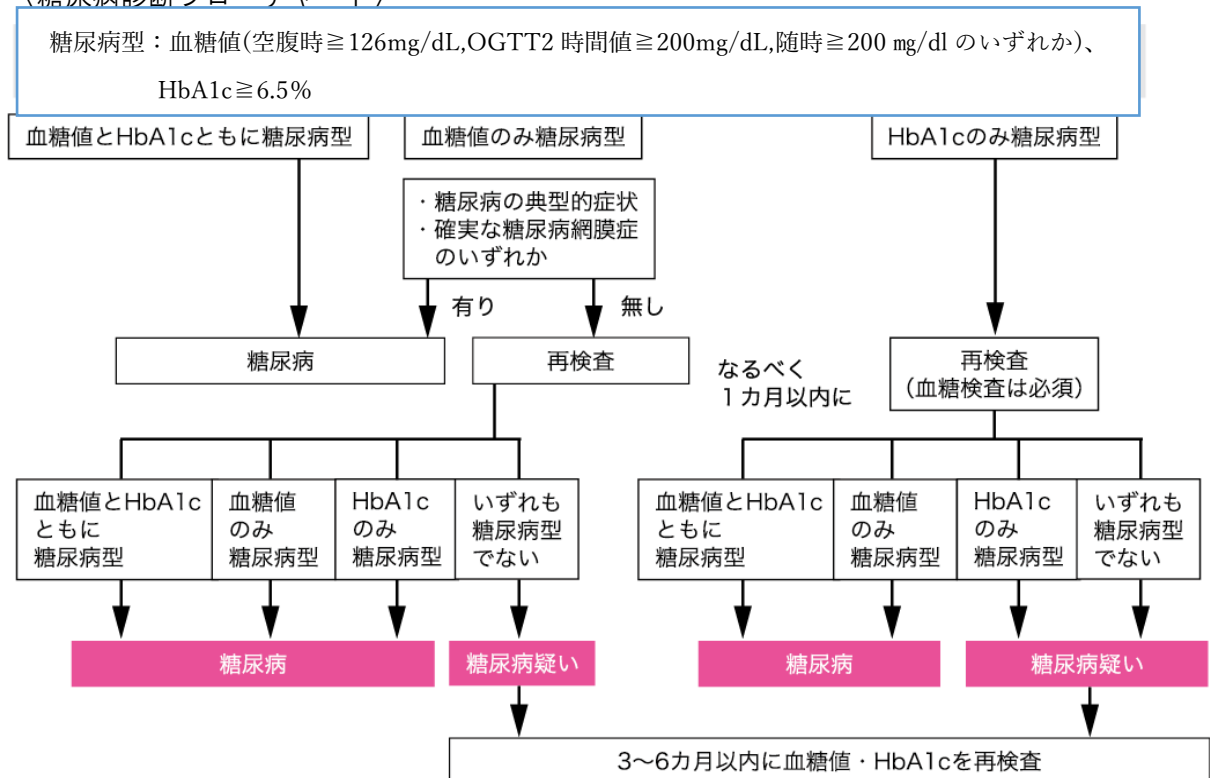
免疫の異常などにより膵臓の細胞が破壊されてインスリンが作られなくなる「1型糖尿病」と、インスリンは作られていても、量が不足したり、うまく働かなかつたりするために血糖が高くなる「2型糖尿病」があります。

糖尿病かどうかを判断するために以下のような基準があります。

～糖尿病と診断するための基準値～

- ① 空腹血糖値 ≥ 126 mg/dl
- ② 75g ブドウ糖負荷試験 2 時間値 ≥ 200 mg/dl
- ③ 随時血糖値 ≥ 200 mg/dl
- ④ HbA1c $\geq 6.5\%$
- ⑤ 糖尿病の典型的症状(口渇、多尿、多飲、体重減少)
- ⑥ 確実な糖尿病網膜症

〈糖尿病診断フローチャート〉



〈糖尿病の合併症〉

糖尿病の合併症には、大きく分けて「細い血管が傷ついて起こる病気」と「太い血管が傷ついて起こる病気」があります。

細い血管の病気には、手足のしびれや感覚が鈍くなるなどの症状がみられる「糖尿病性神経障害」、腎臓の働きが悪くなる「糖尿病性腎症」、目の中の血管が傷ついて視力が落ちる「糖尿病網膜症」があり、これらを糖尿病の「3大合併症」といいます。

太い血管の病気には、「脳卒中」や「心筋梗塞」などの動脈硬化性疾患があります。

ほかにも、肺炎や歯周病、皮膚炎なども起こりやすくなります。



〈合併症の検査〉

合併症を調べる検査には様々なものがあります。



<u>脳梗塞</u>	<u>腎症</u>	<u>心筋梗塞</u>	<u>網膜症</u>	<u>神経障害</u>	<u>末梢動脈疾患</u>
*CT、MRI	*尿検査	*心電図	*眼底検査	*神経伝導	*ABI
*頸動脈エコー	*血液検査	*心エコー		検査	

合併症を予防するために、糖尿病と診断されたら、運動療法や食事療法、必要に応じて薬を使った治療を行い、血糖値をコントロールしていきましょう。